

城取博幸の
東京都内の庭園めぐり

N0146

2021 年 12 月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

旧古河庭園

都内の庭園巡りの続き(昨年 11 月～12 月)

旧古河庭園へ

JR「上中里駅」下車



案内図

前に紹介した六義園、飛鳥山公園も徒歩で行ける範囲だ

線路沿いに進む



長い塀の脇を歩く

屋根に紅葉がはみ出している

駅案内



旧古河庭園入口

東京都北区西ヶ原 1-27-39

旧古河財閥の礎を築いた「古河太郎左衛門」

京都の豪商「小野組」で生糸の買い付けを行っていたが、後に小野組は倒産

鉱山経営を通じて「渋沢栄一」と交流を深める

戦後不況、財閥解体から古河財閥は破綻

案内図



大谷美術館

明治時代「陸奥宗光」の邸宅であったが、次男の「宗光」が古河家の養子になった時、古河家の所有となった

現在の洋館と洋風庭園は、英国人建築家「ジョサイヤ・コンドル」のデザイン

1939年には、南京国民政府を樹立した「汪兆銘」が匿われたという歴史もある

大戦末期は陸軍に、戦後は進駐軍に接收される

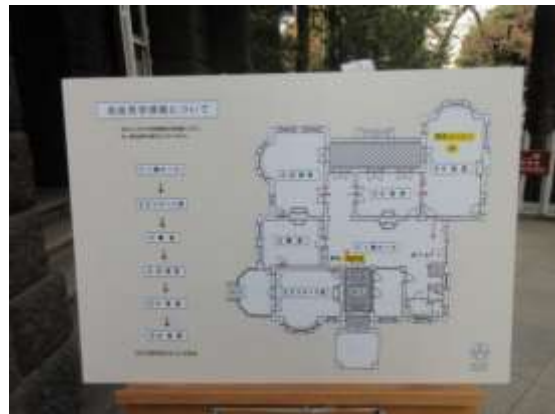
財閥解体により大蔵省に物納 その後東京都に貸与

館内の写真撮影は禁止

一階が洋式、二階が和式となっている
古河財閥の迎賓館となっていた



館内は改装されたが、展示物は少なく当時のものは少ない
2 階の和室は見学できず 残念
今は結婚式場になっているようだ



館内の見取り図
前のバラ園 建物の外壁は真鍋産の「新小松石(安山岩)」の切石積み
これは当時のものか



異国情緒を満喫できるイギリス式庭園

3 段テラスになっている
バラが少しだけ咲いている



満開の時期はキレイだと思う
正面の景色



ベランダはカフェになっているが、館内からの写真は禁止ということで遠慮した
階段を降りて 3 段目の日本庭園へ向かう



雰囲気ガラッと変わる

この石は



富士山の溶岩

奥に池と燈籠が見えてくる

日本庭園は京都の庭師「小川治兵衛」作



ここも回遊式庭園

左奥は「雪吊り」

一枚の石からつくられた石橋



池に映る松

枯滝



鮮やかな赤
雪見型燈籠



説明文
濡鷺型燈籠



説明文

雪吊り作業

「東京には雪があまり降らない」と言われていたが、先日の雪は10cm積もった
都内の庭園には雪吊りがなされている



鴨のつがい

こんな鳥も

ゆっくりとした時間が流れる



茶室

うまく設計された景色



千両

大滝



小川治兵衛が最も力を入れた大滝
こんな道に戻る



コンドル晩年の作品であるが、歴史に残る傑作
銀杏の絨毯



銀杏の実
今はだれも拾う者はいな

21 年 11 月、12 月に都内の 13 庭園を見た回った記録です

「旧安田楠雄邸庭園」と「谷中銀座」

旧品川弥二郎邸

東京メトロ千代田線「千駄木駅」下車



ここは無料開放されている公園

案内図



こも回遊式庭園

大滝



街の中にこんな景色が見られる

旧安田邸庭園に向かう

この辺は高級住宅街だ



旧安田楠雄邸庭園

説明文



大正 8 年、「豊島園」の創業者である実業家「藤田好三郎」氏によって建てられた

大正 12 年、旧安田財閥の創業者「安田善次郎」氏の娘婿「善四郎」氏、「楠雄」氏に渡った

楠雄氏の死後、ナショナルトラストに寄贈される

パンフレット 庭に沿った細長い木造建物 ほぼ当時のまま保存されている



玄関

敷地面積 450 坪、建築面積 140 坪とコンパクト

展示品



玄関を過ぎれば応接間 応接セット
中央のテーブルは 2 段式 手前は火鉢



火鉢の中
絨毯



暖炉

都市ガス暖炉



サンテラス

主庭



廊下を進むと

残月の間

茶を点てる設備も



天井と欄間

部屋から見る庭園

右に見えるボランティアの庭師さんと後で話をさせていただく



茶の間

掛け軸と生け花



台所

冷蔵庫



スタッフに扉を開けていただく

なぜカルピス？

大正 8 年(1917 年)カルピスの前身「醍醐素」が発売された

カルピスとこの屋敷は同窓生
中央にガスオーブンとシンク



風呂
タイルの壁にシャワーの蛇口が見える
都市ガスのボイラーがあったという
風呂桶
色が変わった部分は床暖房



2 階部分
客間



外の景色

こんな素晴らしい景色が見える

いい時期に来た



2 階の廊下

廊下の突き当り



茶を点てる設備

外からの景色



池はない

枯山水



ボランティアの若者がおもしろいことを教えてくれた
この畳の下には階段があるという
確かにこの畳の配列は不自然
脇から覗いてみると何やら建造物が見える



ここの下は防空壕
今も整備されて年に何回か特別見ることもできるという
旧安田邸を後にする
通りを歩くとこんな燈籠が



これは新しいものだが、織部燈籠(キリシタン灯籠)だ
谷中銀座へ向かう



途中の喫茶店で昼食
昔ながらの母親のカレーだ
懐かしい味



ここは関西寿司の店
見本
全て酢漬けか加熱済みの食材を使った日持ちする寿司



巾着寿司を購入

谷中ぎんざ

人が多く繁盛している 駅前商店街が復活しつつある



食べ歩きができるスナッキング調査

魚屋の串物

魚屋の「焼き牡蠣」280 円

江戸時代から屋台で食べられている

これがうまい



鶏肉屋



つくね串

これはそれなり

タコ焼き屋はどうか

これから焼くので時間がかかるため諦める



「たこせん」 たこ焼きをせんべいで挟んだもの
片手で食べられるスナッキングだ
ドーナツ屋



ドーナツをステック状にして食べやすくした
イカ焼き屋は



ここの「いかせん」 これも歩きながら片手で食べられる

商店街の商品づくりも進化している JR日暮里駅 今日も一日よく歩いた



次回は両国の安田庭園を紹介します

旧安田庭園

両国駅の相撲の像



この像は



鷹？を掲げる「徳川家康」

創建説明文

旧安田庭園

墨田区横綱一丁目 入場無料



江戸時代は本庄松平氏の下屋敷

明治に入ると旧岡山藩池田章政の邸宅となる

1879 年、安田財閥の祖である「安田善次郎」が購入

1922 年、東京市に寄贈されたが、関東大震災によりほぼ旧態を失った

案内図

すぐ隣を隅田川が流れる

水門で池の水位を調整していた



塩入回遊式庭園

小島は「心」を表している

池には鯉や亀、鴨が遊ぶ



鴨

雪見灯籠



ビルの谷間の庭園

ここは船着き場か



石橋

水門跡



人工的に造られた水門で、水位の干満を楽しんだ
こんな道をゆっくり歩く
人も少なく癒される



石塔

池に映る紅葉



池に浮かぶ紅葉の絨毯

奥に見えるのは「刀剣博物館」



潮入茶屋

無人の茶屋 内部



お茶を点てる設備も

最近感じること

ニュースを騒がせる凶悪犯罪が増えてきている

2年以上も続くコロナ禍で、メンタル的に適応障害を起こすケースだろう

心が病むときは外に出て公園などを散歩するのも一案だ

「自然は総合病院」と言う人もいる

幕末から明治にかけて、凶作、コレラ、関東大震災が起きた

今もそれに近い時、明るい未来を信じてここは乗り切りましょう

「岩崎彌太郎伝」では

『わが心は溪山丘壑(けいざんきゅうがく)を愛す。

事業上憂悶(ゆうもん)を感じる時は、立派な庭園を見に行く。

心気はたちまち爽快になり、鬱(うつ)を散ずることができる

他に特別の趣味もないが、これが余の唯一の趣味である』

と書かれている

ドウダンツツジ



JR 両国駅に戻る

イベントのポスター 足元をよく見ると



いい革製のブーツを履いている

履物はわらじだけではなかった

小石川後樂園

ここからは徳川家の 3 庭園を紹介します



案内版

日中友好会館



白堀

葵の紋 下は裏紋



水戸黄門ゆかりの地

小石川後樂園は、江戸時代初期、1629 年に実と徳川家の祖である「頼房」が中屋敷として造った
二代藩主「光圀」の代に上屋敷として完成

「後楽苑」の名は、中国の范仲淹(はんちゅうえん)の
「天下の憂いに先立って憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」

案内図

徳川三家(尾張、紀州、水戸)の屋敷だけあって、スケールが違う



水戸徳川の藩主

家系図



びいどろ茶屋

ここで昼食

秋の花かご御膳を注文



都内9庭園

残りは浜離宮、芝離宮、向島百花園の3庭園

中からの景色がすばらしい



料理が出てきた

珍しい料理はないが栄養バランスがいい



入口

先程食事をした建物



説明文

蓮池の隣に小山



小廬山(しょうろざん)

京都東山に見たてている

西湖の堤

中国杭州の西湖の堤に見立てたもの



通天橋

紅葉が桜のように見える

屏風石(びょうぶいし)



三代将軍家光が河原の石に腰を掛けたと言われている

蓮池



これは
清水観音堂跡
関東大震災で焼失



得仁堂(とくじんどう)
葵の紋



光圀 18 歳の時、史記「伯夷列伝」を読み感銘を受け、木道を安置した堂

燃えるような赤



白糸の滝
鯉が泳ぐ



六代「治保(はるもり)」の時に造らえた
庶民の苦勞を教えようとつくられた田んぼ



現在は文京区の小学生が、田植え、稲刈りを行っている

野に咲く花



水路

梅園

光圀は号を「梅里」と称するほど梅を好んだ



水戸偕楽園郷歸りの梅

円月橋



水面に映る形が満月のように見えることから円月橋と名づけられた
中国の儒学者の設計

説明文



隣の後楽園遊園地のジェットコースターのレールが見える

台泉水

二つの島を配し「琵琶湖」を見たててつくられた
船を浮かべて楽しんだ



ここのだんごは前にいただいた

唐門



再建されたもの

内庭

水戸藩書院があった場所

池に浮いているのはスイレン



延段

大小の石を組み合わせた中国式の石畳 出口に向かう

木曽山

昼間でも暗いことから木曽路をしのばせる



この石組は

寝覚滝(ねざめの滝)

木曽の「寝覚ノ床」にちなんで呼ばれた



大きな石が建てられている
再びこんな景色を見ながら



白玉ぜんざいをいただく
甘い物は疲れを癒す



紅葉を見ながら帰宅

次回は「築地場外」と「浜離宮恩賜公園」を紹介します

「旧芝離宮恩賜(おんし)庭園」(昨年 12 月訪問)

東京都港区海岸1-4-1



小石川後樂園と共に、今に残る最も古い大名庭園

幕末に紀州徳川家、1871 年有栖川宮家の所有後、都に売却

入園料は一般 150 円

案内図



中島 中国で仙人が住み不老不死の地と言われている「霊山」を模した

浮島



雪見灯籠

こんな白い鳥が羽を休める



鴨のつがいと亀
鴨と亀が同居
大山に向かう



季節外れのタンポポ
大山からの景色



砂浜

枯滝



この橋は
西湖の堤
中国の西湖を模したもの
小石川後樂園でも紹介した



石柱
建造物に使われた



門柱に使われた

回遊式庭園



淡水の魚 たぶん鯉
こんな道を歩くと

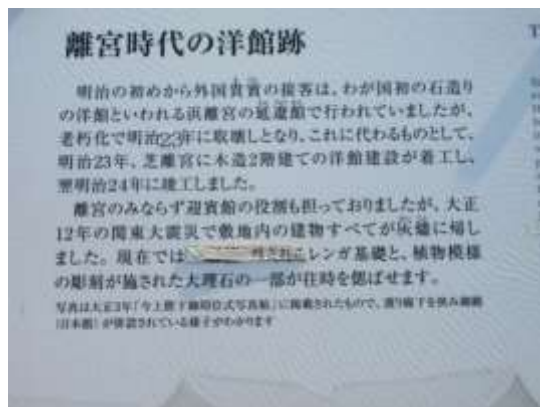


人間のつがいを発見
この水路は



海水取入口跡
今は淡水だけになっている

この景色が見える場所は



ここに石造りの洋館「延遼館」があった場所

今回は徳川家の庭「浜離宮恩賜庭園」と築地市場を紹介します

「築地場外市場」と「旧浜離宮恩賜庭園」

築地本願寺

地下鉄築地駅下車

築地本願寺は浅草にあったが、火災のためここに移築

インド等アジアの古代仏教建築を模した建築

散歩を兼ね築地市場～浜離宮へ

さらに芝離宮まで歩けないことはない



「私もあなたもおかげさま」

内部



親鸞聖人の像



涙を流しているようにも見える



説明文



築地場外市場へ



よく人が出ている



いちご菓子店

いちごに絞って商品開発



焼き蟹

焼き牡蠣



海鮮串焼き

盛り付けのセンスがいい

牛串焼きも



築地は握り寿司と海鮮丼の店が多い

築地は寿司のメッカ

専門店

この店の裏に入る



身体が冷えるので焼き魚定食を

〇〇鯛 名前を忘れてしまう

うまかつワッと焼かれている



もつ煮

身体が温まる

築地市場を後にする



橋を渡れば「浜離宮恩賜(おんし)庭園」

入口



江戸時代には江戸城の「出城」で、徳川將軍家の庭園
將軍様の遊び場であった
明治維新後は皇室の離宮であったが、その後東京都に
かなり大きな庭園
ここで鷹狩りや鴨狩を楽しんだ



歩道

三百年の松



こんもりとしている

中を覗くと、幹ではなく枝が張り出している
よく管理されている



説明文

ここは？

後から聞いてみると、「菜花」の畑だそうだ
春には菜の花が満開になるという



藤棚

茶室



芳梅亭

可美真手命像(うあましまでのみことぞう)



1894 年、明治天皇の銀婚式を記念して陸軍省が制作
奥は東京湾



将軍お上がり場

ここに船をつけた

幕末「鳥羽伏見の戦い」で敗れた徳川慶喜は大阪から船(開陽丸)で江戸に帰還して小舟でここに上陸した歴史がある



今はクルーズ船、水上バス発着場

海水を引き入れた潮入りの池



塩入の池の生き物

釣る者がいないためかなりの魚が生息している

横堀水門

海水を調整している水門



鴨場

水路に沿い餌で鴨を引き込み、土手から鷹や網で鴨を捕るという猟を行っていた



説明文

東京タワーが見える



中島の御茶屋

御庭山からの景色



さらに歩くと3件の茶屋が
松の御茶屋



鷹の御茶屋

鷹の御茶屋

鷹の剥製



鷹狩りの伝統

燕の御茶屋



お伝い橋

総桧(ひのき)づくりで全長120m



橋からの景色

藤棚



中島の御茶屋

明治維新後は皇室の所有となりしばしば国賓も訪れた

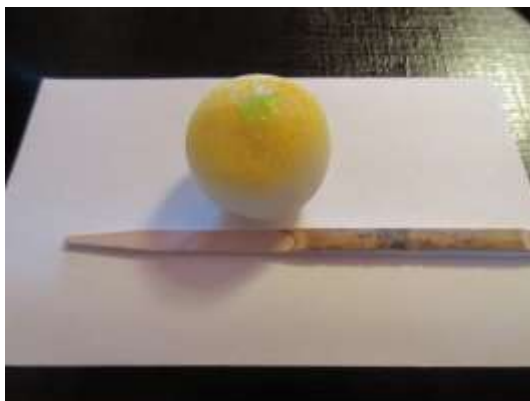


茶室内でお茶

都内庭園の菓子はどこも同じものが出されるので、違った菓子をリクエスト

ゆずの練り菓子を出してくれた

ゆっくりとした時間を過ごす



プレゼント用に考えたが、あまり無理強いしてはいけなと止める

海水魚が泳いでいる 大きな庭園なので歩くと疲れる 休みながら回った方がいい



次回は最終回 庶民の庭園「向島百花園」を紹介します

向島百花園

墨田区東向島3-18-3

東向島駅下車



駅近くの和菓子店 帰りに寄ってみようと思う



こんな道を進む

案内版



向島百花園

江戸町民の文化が開いた公園

「四季百花の乱れ咲く園」という意味

東京都の名勝、史跡に指定

入場料は大人 150 円、65 歳以上 70 円、小学生以下無料



こんな赤い実が

あずま屋



菊の花



御成座敷
春の七草



夏の七草
秋の七草



冬の七草が見当たらない

藤棚

みつばあけび



くず

こんな道を進むと



30mのハギのトンネル

9 月下旬がピーク



この公園の名物

石の橋

回遊式庭園には欠かせない



池

池に映るススキ



蓮の実

池の向こうにスカイツリーが見える



竹林

この碑は



「深川榎本武揚」と書かれている
誰もいないので公園を独占



小高い丘が
建物跡



桑の茶屋跡

桑の木でつくられた2階建ての茶屋があったが、火災で焼失
ここはぜひ復元してほしい
なぜなら

池の正面にスカイツリー
誰がこの景色を創造下であろう



池の中央に映る「逆さスカイツリー」
偶然とは思えない



御成座敷に戻る



芭蕉の「こんにやく」の句
これはぼけの花では



売店へ
ここも独占し、一時間ほど話を聞く
抹茶にするか、煎茶にするか



何杯も飲めるので煎茶にする



百花園の香煎(落雁)
春の七草の竹かご盛り
明治中期から皇室に献上されているという
12 月下中に 6000 円で販売されとのこと
帰省しているので残念ながら諦める



使用される竹かご
百花園の自家製梅干し
1 個 50 円と破格値



一個いただく

昔ながらの漬け方

縁起物の「宝船」

普通は七福神は「唐船」に乗っているが、ここは「田船」

庶民の公園らしい



駅前の和菓子屋さんで見た「寺島なす最中」 小倉餡に茄子が練り込んである



こんな茄子の形をしている

右はバナナ、左はバナナの花 アジアでは花はスーパーマーケットでも販売されている

アジアでは花はスーパーマーケットでも販売されている 竹の子の皮のようで炒め物などに使われる



東武博物館の東武電車



ダイエー グルメシティ
惣菜売場で夕食を購入



価格破壊「穴子一本天井」 298 円
11 月から祝鯛を販売
祝鯛は「お食い初め」などには欠かせない
通年販売はうれしい



穴子一本天井 298 円
これは確かに価格破壊

サクッとうまく揚げてある

かき揚げそば 298 円



助六(小) 199 円

かき揚げそばと助六寿司ではぼワンコイン

組み合わせ抜群

広島風お好み焼き 398 円



二分の一分の野菜サラダ 198 円

近くの「まいばすけっと」でいつも買う商品

ケーキドーナツ 138 円 これもロングラン商品



都内 9 庭園 + 3 庭園をすべて回った

案内図

散歩代わりにおすすめします



江戸時代の浮世絵

スカイツリーを予測していたように言われているが

塔の左は火の見櫓、右は誇張された井戸を掘る櫓と言われている

場所は右船が見えることから佃島らしいため、深川付近ではないか

墨田ではない